

<全体分析>

試験時間

90

分

解答形式

マーク式と記述式（大問5）の併用。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

大問1・2・4[1]で1,651だった総語数が、大問1・2の1,352で微減している。

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

出題の特徴や昨年との変更点

大問は1題増えて大問5題構成に戻っている。2023年度の大問4の[2]に続いて、2024年度は大問5で和文英訳問題が出題されている。2023年度の大問4[1]にあった要約問題は出題されず、空所補充形式の語彙問題が出題されている。この語彙問題では、最近のトピックスに関する知識も求められている。

その他トピックス

- ・「本文の要旨をまとめた英文中の空所を補充する問題」（2024年度は大問2）は3年連続で出題されている。
- ・過去には、自由英作文（1989年度）、内容説明（1987年度）、英文和訳（1981・1982年度）などで本格的な記述問題が出題されたこともある。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
1	読解総合	「6種類のパンデミック」 (632 words)	同意表現選択、空所補充、語句整序、内容一致。取り組みやすい設問が中心なので、取りこぼしのないようにしたい。[1]の④・⑤は受験生にはなじみの薄い語句を問うものなので、消去法で考えることになるだろう。	標準
2	読解総合	「芸術論」 (720 words)	同意表現選択、空所補充、要約文の空所補充。必要とされる語彙力は大問1と同様に高いが、複数の単語帳・熟語帳を正確に覚えておけば、対応できるだろう。	標準
3	読解総合	対話文（半年ぶりに再会した男女の空港での会話、およびその男性の日記）	同意表現選択、再会後の男性の日記の完成。 [1]で出題されているのは受験生にはなじみの薄い表現ばかりなので、文脈を手がかりに考える必要がある。 Ms. Yagami と Mr. Hiyoshi はこれまでも大問3の会話問題で登場している本学部ではおなじみの人物。過去問を通して2人の関係性を理解しておくとう利な設問も多い。	やや難
4	文法・語法		理系分野で話題となっているような語彙に関する問題。英語だけでなく、そうした一般常識も必要となる。	やや難
5	その他	和文英訳	短い日本語の文章を読み、下線部分を英語に翻訳する。定番の対比表現をうまく使えば書けるだろう。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

全体として、基本的な文法や語彙の知識、およびそれらの知識を土台とした英文の読解力が要求されている。文法や語彙についての十分な知識を身につけることに加えて、文脈に注意を払いつつ、説明文や論説文を中心にさまざまなテーマの英文を数多く読むようにしたい。また、長文読解問題の空所補充や同意表現選択の問題では、選択肢に難解な単語や表現が含まれていることがあるので、類義語・同義語に注意しながら、語彙力を拡充しておくとうい。和文英訳問題は、標準的なレベルの問題を演習しておくことで、対応する力はつけられる。